

時間外勤務削減の試み

8-2病棟 野田 美由紀 杉山 美智子
 牧野 仁美 萩原 弘美恵
 今枝 真弓
 5-1病棟 梅原 佳代子

I. はじめに

8-2病棟は主として整形外科の急性期の患者を担当する病棟である。平成21年度より整形外科の手術件数は前年度に比べて約200件増加し、年間1,000件を超えるようになった。それに反して在院日数は平均24日から19日へと減少している。これらに伴い業務はますます煩雑化し時間外勤務が各勤務帯で平均2~3時間あった。平成21年より、これらの現状分析を行い、業務調整を行う中で時間外勤務を減少することができたので報告する。

II. 方 法

8-2病棟に勤務する夜勤を行う看護師20名(但し新人は除く)を対象に、変則3交代勤務を行っていた平成21年10月と、2交代勤務導入後の平成22年6月と、遅番日勤導入後の平成23年12月の各勤務帯での対象者の退勤時間を調査した。平成21年10月と平成22年6月は、新人はまだ研修期間中のため調査の対象外とした。調査は時間外勤務を正確に請求していないため退勤時間とした。

III. 倫理的配慮

対象者のデータに関しては、今後の業務や自身の評価に直接影響しないこと、報告内容、結果の公表について説明し承諾を得た。

IV. 結 果

手術患者が16時~17時に帰室することが多く、夜勤帯に入ってから帰室することもあること、入院患者が午後入院してくること、緊急入院も17時~20時が多いことから平成23年12月より遅日勤の

勤務者を設けた。遅日勤の勤務時間を業務が集中する11:30~20:00とした。図1)遅日勤の業務は主に手術患者の担当を行うようにした。

変則3交代勤務から2交代勤務へ変更、遅日勤導入後の各勤務帯での退勤時間は表1)のように変化した。退勤時間であるため研修、係の活動などの時間も含まれ正確な業務終業時間とはなっていないが、調査結果2交代勤務、遅日勤導入後退勤時間は早くなった。ただし、遅日勤導入後の12月は年末のため手術件数、入院患者数は若干減少していることの影響が大きいと考えられる。また、平成22年2月より大腿骨地域連携パス導入後、大腿骨頸部骨折患者の在院日数は短縮した。表2)

VI. 考 察

今まで、様々な業務改善を行い、スタッフに声かけをし、意識改革をしてきたがなかなか時間外勤務の削減ができなかった。勤務時間変更前後で、退勤時間を調査した結果、2交代勤務に変更、遅日勤導入後で退勤時間が早くなった。今回、業務改善を行いながら業務が集中する時間帯に勤務時間を変更したことが時間外勤務を削減できた大きな要因であると言える。整形病棟は、回診や手術、入院、検査、リハビリなど他部門との時間調整の中で業務調整を行っており時間管理が難しい。遅日勤をつくることで、業務が集中する時間に人員を厚くできること、その遅日勤者が手術の患者を担当することで他のスタッフが手術以外の患者の業務に集中することができるようになった。また遅日勤者に日勤の残務を引き継ぐことで日勤者が時間内に記録に入りやすくなった。その結果、日勤の時間外が減少した。また、夜勤帯においても一番ケア度の高い時間帯に人員がいることで急変時の対応や術後の患者対応で助かったとの意見もあった。

また、業務改善においては、申し送りの廃止、手術経過表の改善、看護助手業務の拡大、メディカルクラークの導入、地域連携パスのシステム化などを行なった。患者の高齢化、認知症患者が増える中で、ケア度がますます高くなる一方、在院日数は短縮している。運動機能に障害を持つ患者が術後2週間で歩いて自宅に帰るためには、早期離床とリハビリ、それを支える看護の力が大きいと感じている。看護師は日常生活の支援者であり、直接業務は削減できない。限られた人員、時間の

中で患者が1日も速く回復するためには、スキルミックスしそれぞれの職種が専門性を発揮し支援することが必要である。

V. 結 論

1. 病棟の業務が集中する時間に人員を厚くすることで時間外が減少した。
2. 時間外勤務削減には、時間外になっている要因を分析し業務改善することが重要である。

表1)

	変則3交代 (H.21.10)	2交代 (H.22.6)	遅日勤導入 (H.23.12)
日 勤	19:41 (2時間41分)	19:43 (2時間43分)	18:42 (1:42)
半 日	14:10 (1時間10分)		
中 勤	24:08 (3時間08分)		
夜 勤	12:18 (3時間18分)	11:40 (2時間10分)	10:45 (1:15)
遅 日 勤			20:41 (0:41)

表2)

	H.21.4.1~H.22.1.31	H.22.2.1~H.22.9.1	H.23.6~H.23.9
在 院 日 数	34.5日	28.5日	24.9日
連 携 パ ス 率	43.4%	66.7%	73.3%

図1)

